

記念講演

下水道とサステナビリティ

味 埜 俊

Takashi Mino

東京大学新領域創成科学科

プロフィール

1978年 東京大学工学部都市工学科卒業
 1983年 東京大学大学院工学系研究科
 都市工学専攻博士課程修了
 1983年 東京大学工学部助手(都市工学科)
 1985年 同 講師
 1989-97年 同 助教授
 1989-91年 アジア工科大学院助教授
 1997年 東京大学工学部都市工学科教授(都
 市工学科)
 1999年-現在 東京大学大学院新領域創成科
 学研究科教授(環境学研究系)
 2005年-現在 東京大学サステナビリティ
 学連携研究機構兼任教授



講演概要：

この数年間、新しい学術分野として「サステナビリティ学」を構築し、「サステナビリティ学教育プログラム」を設計するという仕事に携わってきた。下水道は社会の重要なインフラの一つであり、サステナブル(持続可能)な社会を論じるときに重要な要素ではあるが、下水道の機能だけを独立に議論することはできない。サステナビリティ学の神髄は、人類の持続可能性に関わる複雑な問題を、包括的・具体的に、またシステムとして扱うことであり、さらにそのプロセスに学際性を求めることである。本公演では、1) 下水道の将来像に関してどのような議論がなされてきたか、2) どのような前提で社会の将来像を考えるべきか、3) 「サステナビリティ学」がもたらすものは何か、そして、4) 以上をもとにした下水道におけるサステナビリティの意味について論じる。

以上の議論から見えてくるのは、下水道システムを独立して扱うことではなく、隣接技術システムや社会システムとどう相乗りするか、言い換えれば社会全体のハード・ソフトな設計を分野や専門性の壁を乗り越えてどうすすめるかという論点の重要性である。エンドポイントとしての下水道の将来像についての議論は



一方で大変重要であるが、社会としての技術的選択をおこなうプロセスを重視する必要がある。

最後に、震災と下水道とサステナビリティ学の関連についても考える。3.11 東日本大震災は下水道にも甚大な被害をもたらした。その意味は下水道分野にとってもきわめて重要である。現時点での教訓をまとめてみたい。